The Japanese Society of Physical Fitness and Sport Medicine



膊圍等を報告する。

## 18 小中學生の身體平衡能力に就いて

東大生理 福田邦三 宮川清

本研究は昭和26年1月下旬，東京都新宿區富久小學校の當時の全員（747名 男378名 女369名）に對して行われた。開眼並びに閉眼の狀態で利き脚を用いての片脚立ちが，調節された狀態で持續し得る時間を計測した。その結果を學年別に見ると，一般に上級のもの程成績がよく，男女別では女兒の方が男兒よりも成績の良いことが認められた。次の表は閉眼の場合で，開眼の場合は稍これより成績がよい。

| 學年 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 人數 | | (64) | (76) | (78) | (57) | (50) | (53) |
| | 比率% | 5秒未滿 | 40.6 | 37.3 | 37.1 | 40.3 | 22.0 | 13.2 |
| | | 5秒以上10秒未滿 | 46.8 | 44.7 | 44.8 | 50.8 | 52.0 | 58.4 |
| | | 10秒以上 | 12.5 | 18.4 | 17.9 | 8.7 | 26.0 | 28.3 |
| 女子 | 人數 | | (65) | (65) | (72) | (76) | (52) | (39) |
| | 比率% | 5秒未滿 | 27.6 | 32.3 | 23.6 | 22.3 | 17.3 | 17.9 |
| | | 5秒以上10秒未滿 | 56.9 | 58.4 | 41.6 | 56.5 | 46.1 | 41.0 |
| | | 10秒以上 | 15.3 | 9.2 | 34.7 | 21.0 | 36.5 | 41.0 |

## 19 共同研究會報告 性年齡別體力基準

東大生理 福田邦三

## 20 共同研究報告 體力の逐年的觀察

公衆衞生院 船川幡夫

## 21 動作の發達

お茶の水女大 猪飼道夫 石井千枝子

動作のうちで敏捷性を主とする四肢の急速反復動作が，身體發育に伴つて如何に變化するかを觀察し，動作の神經支配及びその發達順序を知る手段とした。これと併行して，日常の運動能力及び動作を參考にして，これらの相互關係を檢討した。被檢者は5～20歳に亙り，健康男女をえらんだ。

四肢の急速反復動作の檢査には，被檢者を坐位におき，(1)片手單獨 (2)兩手同時 (3)兩手交互 (4)片足單獨 (5)兩足同時 (6)兩足交互のときの各々の動作を電接式にて記錄した。手足の急速反復動作は各々15秒間の反復回數（N）と，各動作の時間間隔の差の平均値を求め，これを不規則度（D）となずけた。

(1) 年齡との關係

年齡のすゝむにつれて，Nは增大するが，Dはこれと逆に減少する。且つDの減少は10～11歳頃から著しい。尙手の動作では交互動作のときにDが一般に大きく，とくに年少者でこのところが著しい。足の動作では同時及び交互共にDが大であるが，とくに年少者で著しい。

(2) 一般運動能力との關係

日常觀察における運動能力（體育教官による評價による）の良好とされる者と，そうでない者とを二群に分ち，N及びDを年分別に比較すると，その平均値に於て，運動能力の良好な群では他の群に比して，Nは大で，Dは小であることが認められた。このことは，成人に於ても著者の認めたことであつて〔體育の科學，I (1951)151～156〕，このことが若年者に於ても同樣の關係にあることは興味がある。

以上の結果から，四肢の種々の組合せによる動作が，反復回數の增大及び不規則性の減少という形でも發達すること及び一般運動能力とも關連をもつということを知つた。

## 22 小中學生の握力

東大生理 石河利寛

NII-Electronic Library Service